

研究課題 (テーマ)	コミュニティの理解に基づく在日外国人妊産婦に対する看護職向け支援プログラムの作成		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 母性看護学講座	助教	西村 香織
分担者	看護学部 母性看護学講座	教授	松井 弘美
	看護学部 母性看護学講座	准教授	工藤 里香
	看護学部 母性看護学講座	講師	村田 美代子
	看護学部 母性看護学講座	助教	三加 るり子
研究結果の概要			
<p>今日、多文化共生が推進され、在日外国人の出生数が増加している中、臨床では未受診妊婦や飛び込み分娩など、母子共にハイリスクな実態がある。富山県ではベトナム人研修生や技能実習生の受け入れにより、ベトナム人登録者数は増加している。本研究は、今後も増加すると予想される在日ベトナム人女性が安全に、かつ安心して日本の医療を受けられるように①ベトナム人女性の妊娠・分娩・育児の状況を明らかにし②支援プログラムを開発することを目的に調査および分析を行った。</p> <p>日本で妊娠・出産・育児を行うベトナム人女性で、研究に同意の得られた妊婦 2 名とその家族や友人を対象に、妊娠期から産後 2 か月の期間に、継続して参加観察と半構成的面接を行った。分析方法はエスノグラフィーを用いた。</p> <p>研究協力者は、在日ベトナム人女性 2 名とその家族や友人であり、2 名のうち、1 名は夫がベトナム人、1 名は夫が日本人であった。2 名ともに在日期間は 3 年であり、日本語の理解力は良好であった。</p> <p>分析の結果、在日ベトナム人女性 2 名の共通する行動や考え方のパターンとして「ベトナムの家族を大切にしている」、「フェイスブックを情報源や友達づくりに活用する」、「日本で生活するために日本語を習得する努力をする」、「ベトナムの妊婦にとって妊娠 12 週の超音波検査（ダウン症の検査）が大事だと認識している」、「妊娠中のサプリメントや食事の違いを感じている」、「保健センターを利用するという感覚がなく、困ったときや緊急時に身近に聞くことができる日本人の専門家を求めている」、「日本での生活や子育てに窮屈感やさみしさを感じている」が抽出された。異なる行動や考え方のパターンとして、夫がベトナム人の女性は「今後、ベトナムに戻り母国での育児を希望している」、夫が日本人の女性は「子どもの教育を 2 国間で比較し日本での育児を選択する」が抽出された。</p> <p>本研究の結果は、今後、国際学会、国内学会、学術誌において成果を発表する予定である。</p> <p>最後になりましたが、本研究にご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
<p>本研究において、在日ベトナム人女性の妊娠・出産・育児の体験の特徴と必要な支援が明らかになった。今後は、本研究の成果より明らかになったコミュニティや文化の理解などの視点を踏まえ、在日外国人妊産婦とそのコミュニティと共に支援プログラム作成し、看護職に提示していく予定である。</p>			